



泗水小だより



泗水小学校
学校だより No12
文責 芹川博文
7月7日(金)

学校教育目標 「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

地域の「先生」に学ぶ その道の「プロ」から学ぶ

～「田植え」「赤ペン先生」「花苗植え」「見つめて未来教室」～

【3年生「田植え」】



「寝とっともあるばってん、一時すつと、ええあんばいになるですもん。」
田植えの翌朝、別の水田で仕事をされていた稲田さんが、トラクターを止めて話された言葉です。長年、泗水小の田植えをご指導いただいている稲田さんと、JA 青年部5名の方のご指導の下、今年も3年生による田植えができました。

見ると確かに、他の水田と一味違います。傾いている苗もあれば、大きな束の特大苗もあり実にユニークです。人に例えると様々な個性あふれる稲たちです。「大丈夫かな」と、ちょっと心配な稲もありますが、「ええあんばいになる」との稲田さんの言葉のように、まっすぐに伸びていく自然の力を信じて、見守りたいと思います。秋の収穫が楽しみです。

1, 2年生「赤ペン先生」



子どもたちの緊張感と、丸をもらった時のじわっと広がる安心感と喜びが伝わりました。
今年度も13名の方が「赤ペン先生」に登録していただきました。これまで学習した問題ではありますが、担任とは違い「赤ペン先生」に丸をもらう時はドキドキです。写真(右上)のように、「お願いします」と持っていき、地域の方と1対1で向かい合う場面も、最近では特に貴重な機会だと思いました。
担任は子どもたちを見て回り、個別に指導することもでき、「赤ペン先生」のおかげで学習効果の高い時間となっています。地域の方のご協力、本当にありがとうございます。

【委員会「花苗植え」】



「子どもたちと一緒にするのは、いつぶりだろうか」との声。スクール・ガーデニング・クラブの方4名に来ていただき、栽培委員会の児童とポチュラカの花苗を植えました。
「移植ごては、こぎゃん持つとよかばい。」
「苗ば出したら、ポットは重ねるとよか。」など、子どもたちは、丁寧なアドバイスを受けながら苗を植えていきました。

【6年生「見つめて未来教室」】



「私の話を聞いて、子どもたちが自分も頑張ろうと思ってくれれば。」(酒井さんの言葉)
6年生の新企画、「見つめて未来教室」の第1回目は、地域にお住いの酒井さんに来ていただきお話を伺いました。障がいを持ちながら、仕事と同時に陸上選手としての人生を歩まれており、ご自身の体験を語っていただきました。
「職業を学ぶ」だけでなく、「その人の生き方に学ぶ」ことをねらいとして考えられた6年部の新たな企画。2回目以降も楽しみです。

JA 様から「ちゃぐりん」の贈呈

JA 様より、子ども向け農業雑誌「ちゃぐりん」を4年生がいただきました。野菜や果物、料理の仕方などが掲載されています。
教科の学習だけでなく食育の視点でも活用できればと思います。ありがとうございました。

